

芝谷地湿原の植物⑤



モウセンゴケ (モウセンゴケ科)

食虫植物の中でも最も分布が広くよく知られているモウセンゴケは、芝谷地の広範囲に自生していたものです。しかし現在は、ヨシの繁茂で自生地が日陰になつたため葉が赤くなれず、軟弱に見えます。

暑くなつてくると、細い茎を長く直立させてかわいいう井の白い花を咲かせますが、その開花時間は午前十時からお昼過ぎにかけての半日程度です。葉面の多数の繊毛に虫が触れると、たちまち粘着して包み込み、分泌液で消化してしまいます。通常、八工等の小虫が捕らえられますが、まれにイトトンボが捕らえられる場合もあります。 文・菅原キサ 写真・山田政一

編集後記

□旧盆も早いもので終わろうとしています。ふるさとに帰っていた人たちも、手にはたきさんのお土産、心の中にはふるさとのよき思い出を持ち、それぞれの家へ帰るころと思います。二十年前の私を思い起こしているところ
です。 (ま)

□先日関東方面へ出かけてきました。連日四十度近い猛暑のため海へ向かう車で道路が渋滞。その間こちらはというと、連日大雨洪水警報が出るほどの雨で、最高気温も二十五度に満たなかったとのこと。同じ日本でもこんなにも違うものかと感じました。 (咲)

□子供を取材するときは怖がられないように、心を開いてもらえるように、と心がけているのですが、実際は子供の方が心が広がって、怖がっているのはこちらだったりします。子供と遊ぶには自分が子供にならなければならぬですね。二井田保育所のみんな、遊んでくれてありがとう。 (ゆ)

◆ 広報おおだて 平成7年8月16日号(No635)

発行/大館市 〒017秋田県大館市字中城20番地

☎ 0186-49-3111

編集/総務部総務課広報広聴係(内線258)

◆ 広報おおだては再生紙を使用しています。